市営地下鉄での出来事

優先座席が２つ、その前に一般座席が４つありました。優先座席には、お年寄りが２人、一般座席も４人座っていました。そこへ、目の不自由な方が、駅員さんに誘導されて乗ってきました。優先座席の人は、『自分たちは、優先座席に座る権利がある』というような顔で、席を譲ろうとはしません。一般座席の人は、ここは優先座席ではないので、席を譲る義務はないと思い、席を譲ろうとはしません。４人のうちの一人の女性は、化粧を始めました。『私は、化粧をしているから譲るわけにはいきません。』という感じです。駅員さんは、困ってしまいました。

すると、その４人のうちの一人が立ち上がり、席を譲りました。そこへ、目の不自由な方が座り、駅員さんもほっとして、電車から降りました。

それをたまたま見ていたその市の市長さんが、「優先座席が少ないなあ。もっと多くしないといけないなあ。」と考え、市の会議で、「女性専用の車両と同じように、優先座席専用の車両を作りたい。」と提案しました。みんなはそれを受けて、大賛成をして、その市には、優先座席専用の車両ができました。

ある時、その市長さんが、外国へ視察に行き、たまたま電車に乗る機会がありました。すると、その電車には、優先座席がありません。それで、市長さんは，得意になって「私の市では、優先座席専用車両があります。ここの国ではないのですか。」と尋ねました。

するとその国の人は、「この国では、すべてが、優先座席です。」と答えました。市長さんは、黙ってしまいました。そして、「私の市では、いつになったら優先座席がなくなるのだろうか。」と考えてしまいました。

私たちの学級経営もこんなことになっていないだろうか。

授業と休み時間の区別がつかない。何とかしたい。

↓

区切りをつけるために毎時間授業の始めに、みんなそろって挨拶をしよう。

↓

厳しく指導して、みんなそろって、きちんと挨拶ができるようになりました。

そして、授業と休み時間の区別がはっきりでき、うまく授業ができるようになりました。

↓

うまくいったので、これを３学期終わるまでやろうと決めました。

と考えないだろうか。

うまくいくようになれば、次のステップを考えるべきではないでしょうか。
挨拶をしないでも授業と休み時間の区別がはっきりできるようにするにはどうするか考えるべきではないでしょうか。

学級経営は、うまく機能するようになれば、常に次のステップを目指すことが大切である。
授業についても同じことが言える。